

楠(くすの木)の枝から抽出 カンファーと痛み

クスノキ(楠)は常緑高木です。木全体に特異な芳香を持つことから、「臭し(くすし)」が「クス」の語源となったといわれています。また、「薬(樟脳)の木」が語源とする説もあります。天然記念物に指定されているものが多く見られ、特に神木などで広く知られています。

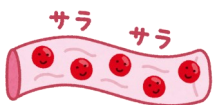
楠の枝葉を蒸留して得られる無色透明の固体のことを樟脳またはカンフル・カンファーといい、強く刺すような香りがします。楠は、木全体から樟脳の香りがするため防虫剤、防腐剤の他、花火の添加剤としても使用されています。また、皮膚から吸収される際にメントールのような清涼感をもたらし、局部麻酔のような働きもあるといわれています。

カンファーの効用

鎮痛と血行促進

疲労回復、リウマチ、神経痛、肩こり、腰痛。

また楠の生薬、樟脳には外用医薬品として血行促進剤や鎮痛剤として利用されています。



リラックス

クスノキの香りはリラックス効果が高く、刺激のある香りが沈みがちな心を高揚させて、エネルギーを与えてくれます。頭をスッキリとクリアにしてくれるので認識力や集中力を高め、仕事のときにも活躍する香りです。心を安定させると同時にパワーを与えるくれる実力のある香りなのです。



肌荒れ防止

樟脳には消炎効果や抗菌効果が認められ、ニキビや湿疹などの皮膚トラブルの予防に使用されるスキンケア製品に用いられることがあります。



炎症や症状を緩和

外用として使用する場合、樟脳を溶かしたものを湿布のようにして貼ると炎症を抑える働きがあるため、打撲や、打ち身、リウマチなどの痛みを軽減する働きがあります。



防虫効果

虫は、樟脳の香りを苦手とするため、楠には衣類を食べる虫を寄せ付けない忌避効果があります。このため、古くから衣類の防虫剤として利用されています。



仏像にクスノキ

材木は耐朽性が高く、その防虫効果や巨材が得られるという長所から、家具や飛鳥時代の仏像にも使われていました。仏像の材木として、日本では最初にクスノキが使われています。



樟脳(カンファー)

日本での最初の製造は1700年頃だと言われています。当時の琉球(沖縄)から生産技術が伝えられたと考えられています。樟脳とは、クスノキから採れる白色半透明の結晶です。(別名カンフル、カンファー)



参考資料: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%82%B9%E3%83%8E%E3%82%AD>
<https://himitsu.wakasa.jp/contents/kusu/>
<https://www.timeless-edition.com/archives/4343>
<http://kusuhandmade.com/>

おすすめ製品



PAIN NOMORE (SRP\$30/4oz)

ペインノーモアはカンファーをはじめ、メントール、有機ゲルマニウム、薬草をブレンドした自然の抗痛ジェルです。腰痛、膝痛、筋肉痛、関節痛、方や首の凝り、捻挫などの辛い痛みを和らげる目的でつくられました。アルコールやワックス、オイルは使用していませんので安心してご利用頂けます。

＝ご使用方法＝

一日に3回～4回、痛みや凝りのあるところにご使用下さい。